

平成28年度第1回健康・生きがいづくり推進協議会議事趣旨

議題	出された意見等の概要	
(1)健康きりしま21(第2次)の進捗状況について	委員	保育園、幼稚園及び認定こども園において、フッ化物洗口事業の実施園が増えていかない問題点は何か、未実施の園に対しての具体的な取り組み等あるか。
	事務局	保育園、幼稚園の制度が大きく変わり、幼稚園から認定子ども園に変わる際の手続きなどあり園の準備体制がとれないという事があった。また、幼稚園は帰りの時間が早く、フッ化物洗口事業を実施する時間がとれず取り組みが進んでいない状況がある。平成28年度から平成29年度にかけては、個別に相談を働きかけ、現実的に増やしていく努力をする。
	委員	今年度より始まった小学校のフッ化物洗口事業について、高千穂小・川原小の小規模校がスタートしたが、国分北小などの大規模校について、現場の先生方は非常に慎重な方が多いが、市としてはどのような対応をするか、また、校長会会長の意見はどうか。
	事務局	大規模校になると、職員の負担、特に養護教諭の負担が懸念されている。養護教諭以外の校長先生、教頭先生などを主体とした先生方の協力をいただきながら進めていかないと難しい。先行している薩摩川内市の取り組みなどを参考にしながら、学校側も対応の準備をしているところである。
	委員	薩摩川内市の取組について、今年の1月には視察に行ったところである。教職員説明会を2回、保護者説明会の実施を予定している。今年度中に水でのうがいの練習などを進め、来年度には本格的な実施ができるようにしていきたい。必ず週1回という形でなくても、学校行事等でできない時には融通をきかせながら進めていきたいと考える。
	委員	妊娠中に、飲酒・喫煙があるという状況に驚いた。このような方々は、飲酒や喫煙をした場合の危険などを知っているのか。
	事務局	母子健康手帳発行時に、妊娠中の飲酒・喫煙について聴いており、その時に保健師が未熟児に繋がることなど説明をしているが、習慣化した飲酒・喫煙をその後止めたかどうかの確認までは把握できていない。今後は産後にアンケートを実施し把握していく。
	委員	国は東京オリンピックに向け世界各国から日本に来られることを受け、受動喫煙対策に力を入れている。また、この年は、鹿児島県は国体の年でもあり県外からたくさんの方が来られるため、県としても「煙のないお店」を推進している。市にも協力をもらいアンケート調査を実施してもらいたい。また、女性や子ども等、「たばこの煙のないお店」を知りたいと探す人もいます。女性の肺がんや低出生体重児の出生などとの関わりもあるので、今後とも協力して受動喫煙対策を広めていきたい。 フッ化物洗口事業について、薩摩町は、保育園・幼稚園が100%だったため、小学校での取り組みがスムーズであったこともあるので、保育園・幼稚園での取り組みをぜひ進めていただきたい。 また、睡眠がとれていない人が増えているが、睡眠は、生活習慣病との関連が深いので、睡眠の啓発を進め、GPネットを活用し必要な人は専門の医師に繋いでいただきたい。
	委員	喫煙啓発について、ATMや電車やバスなど様々な所にポスター等を貼り、だれもが目にする機会をつくり啓発をしていただきたい。受動喫煙は、こんなに危険なんだと一般の人が理解できるようにしてほしい。

事務局	受動喫煙の害について、あらゆる場所、機会をとおして媒体等も活用しながら啓発に努めていきたい。また、「煙のないお店」推進のためのアンケート調査の実施や、公民館へ受動喫煙についての通達など、順次実施できることから始めていきたい。	
委員	10代の自殺死亡者の生活背景として、引きこもりだったりする子もおり身体運動が少ない現状もある。対策の1つとして、運動普及推進員の活動の中で、そういった引きこもりの子どもたちに対して、何か力になれることができないか。また、フッ化物洗口事業について、学校の現状として、むし歯予防に認識を持つ親と、意識があっても対応ができていない親がいる。安全性について、歯科医院でフッ素を塗布している子の場合、学校でもフッ化物洗口をして身体に取り入れることになり、また、間違っって飲み込んでしまった時の影響など、フッ化物洗口事業を進めるにあたって、保護者が理解できるような説明をしていただきたい。	
事務局	1点目の子どもの自殺に対して、身体活動が少ないのではというご意見について、自殺の原因についての詳しい現状把握は難しいが、健康いきがづくりの中で、小さい子どもたちの身体活動への取組は非常に大事かと思う。その観点は運動普及推進員の活動として、地区会等での意見と併せた形で今後どう取り組んでいくか考えていきたい。	
委員	2点目のフッ化物洗口事業については、歯科医師会としても行政と共に、今後、保護者説明会を開催し、フッ素の安全性などを説明し、保護者の同意を得た上で実施していく。	
委員	自殺対策で商工会議所等と連携を図るとあるが、具体的にはどのようなことか。	
事務局	平成26年の自殺の統計では、働いている世代の自殺が多かったことから自殺対策検討委員会で、企業等へ働きかけたらしいのではということとなった。2週間以上眠れていない人は、うつの可能性があるため、早く気づき受診に繋げることが大切。そのために、「眠れていますか」のリニューアルしたリーフレットを、商工会議所等の協力のもと企業に配布できないかと検討している。	
委員	家庭用の血圧計について、血圧管理のために血圧計を霧島市民に安く提供することが可能か。	
事務局	血圧計は健康管理に大変重要なものだが、財政的な面もあるため今後の検討課題としたい。	
(2)霧島市食育推進計画(第2次)の進捗状況について	委員	「環境に配慮した食育推進」の有機栽培の推進について、食の安全を考え、霧島市に有機栽培の野菜を置くお店や販売先を増やしていただきたい。
	事務局	食育の重要対策の中に「食品の安全性や栄養等に関する情報の提供」があり、農政畜産課とも連携をとり、できるだけ安全な食品が提供できるように努力する。有機栽培のお店については、今後の取組み課題である。
	委員	昨年、4月から機能性表示食品について制度ができたが、機能性と食育と地元産物が結びついたものを作ってはどうか。

	委員	有機や無農薬などの標記を霧島市で認定できれば、霧島市のよさを発信できるのではないかと。食育の進捗状況「朝食をほとんど毎日食べる市民の割合」の目標値が100%だが、小中学生で現状値90%代は合格ラインでは。朝食を食べないで体調を整える人もあるので100%目指す事は大事だが、そうでなくてもよいのではないかと。成人男性は低いので逆に朝食をとるように推進していただきたい。
	事務局	有機栽培の食品については、霧島市で何ができるのか検討したい。また、霧島市が認証するという事は、検査体制の整備などハードルが高いと思われる。農政畜産課に意見を伝え、霧島市として何ができるか検討をしていく。朝食摂取については、家庭環境も変わってきていて難しい所はあるが、100%を目指すという事で目標設定しており、今後も努力していきたい。
(3)健康生きがいづくり推進モデル事業、地域健康生きがい事業及び健康マイレージ事業について	委員	平成29年度の健康マイレージポイントカードは、申込のハードルが上がっている。健康診断を受診している事が第1条件で、ポイント数も前年度より2ポイント増えて、8ポイント集めることになっている。ハードルをあげるメリットは何かあるのか。
	事務局	現在の6ポイントでは事業開始から、早い方で6月1日にはポイントが貯まり、持ってこられる状況がある。参加できる事業が150位あるので、色々な事業に参加していただきポイントを貯め、健康づくりの習慣化に繋げてほしいという意図がある。今後、色々な意見を考慮し、回数等については検討していきたい。
	委員	景品がよくなるということで、参加者のモチベーションも変わってくると思う。健康マイレージポイントが魅力あるものになりましたという時に、ポイントの数が変わる分にはいい意味でのモチベーションになる。健康マイレージの変更については、様々な方法で周知していただきたい。
	事務局	ポイントについて、健康診断のポイントが加わり、受診率の向上も含めて市民の健康づくりに寄与するものである。健康マイレージの変更については、市民に十分に周知する。
	委員	景品についての提案だが、地元の産業との連携で、共通商品券などはどうか。
	事務局	市独自の商品券は難しい。商工会議所も現在のところない。特定の商品をいくつか決めて選択するなどの工夫はできる。
(4)その他		特になし。

